

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 則松 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

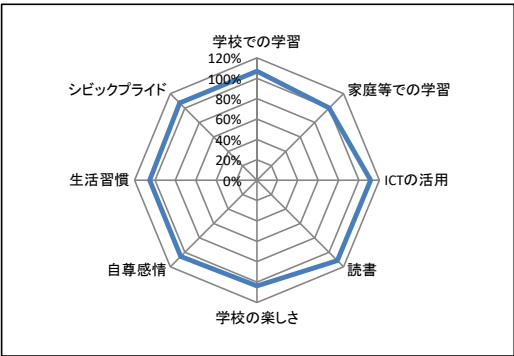
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「読むこと」の正答率は全国比を上回った。「話すこと・聞くこと」の正答率が下回っている。 記述式の問題の正答率は全国比より高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・「ちらし」の二重傍線部を、「調べたこと」を基に詳しく書き表す問題	
	努力が必要な問題	・登場人物が～と発言した目的として適切なものを選択する問題 ・「ちらし」の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「図形」の正答率が全国比より低い傾向にある。 「測定」の正答率は全国比を上回った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・分数のたし算で正しく計算する問題 ・はかりが示された場面、はかりの目盛りを読む問題	
	努力が必要な問題	・角をつくる二つの辺をそれぞれ伸ばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ問題 ・数直線上に示された数を分数で表す問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「エネルギー」及び「粒子」を柱とする領域の正答率は全国平均程度である。 「地球」を柱とする領域の正答率は全国より低い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、顕微鏡の操作を選ぶ問題 ・ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、適切な解決方法を選ぶ問題	
	努力が必要な問題	・赤土の粒の大きさによる水のしみ込み方のちがいをまとめたわけについて、結果を用いて書く問題 ・電気の回路の作り方について実験方法を発想し、表現することができるかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣、家庭等での学習、ICTの活用が特に前年度より大幅に向上している。 ・本市が取り組んでいる読書においても、本市の数値を上回っている。 ・「友達関係に満足しているか」「学校に行くのは楽しいと思う」の問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。 ・「自分によいところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」がどちらも90%を超えていることから、相関関係があることがうかがえる。 ・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 ・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が半数程度にとどまっております。他の項目に比べると低かった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・各教科の学習において、課題を把握し、自分の考えをもてるように学習展開を工夫していく。さらに、お互いの考えを読み取り、意図や思いを汲んだり、理解したりすることができるように話し合い活動を設定する。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

・ICT活用が昨年度より大幅に向上した。各教科の学習の中で活用していくことと並行して、家庭学習においてもドリル学習や調べ学習等で、ICTの効果的な活用を図り、紙媒体の宿題とのベストミックスを実現していく。
--